

2016年12月4日

福音書からのメッセージ

そのころ、洗礼者ヨハネが現れて、ユダヤの荒れ野で宣べ伝え、「悔い改めよ。天の国は近づいた」と言った。

(マタイによる福音書3章1~2節)



自分自身で清くならないといけないのであれば、誰も神さまの元になどいきません。いつまでたってもわ

た私たちと神さまの間には、深い溝ができてしまっていたでしょう。しかし神さまはそれを良しとはされませんでした。

今日の箇所には洗礼者ヨハネが登場します。彼はイエス様の前に活動していた人物です。洗礼者ヨハネは、とても厳しい人物として描かれます。らくだの毛衣を着、腰に革の帯を締め、いなごと野蜜を食べ物としていた彼は、「悔い改めよ。天の国は近づいた」、「斧は既に木の根元に置かれている」と人々に告げます。

イエス様がお生まれになったこと、それはわたしたちと神さまとが、もう一度正しい関係に戻れるように、神さまが計画されたことです。わたしたちは自分の力では神さまの元に行くような、きちんとした人間にはなれないかもしれない。しかしイエス様はわたしたちに関わってください、わたしたちに手を差し伸べ、わたしたちをこのままで受け入れてくださるのです。

彼はメシアが来る前に、人々を悔い改めに導こうとしていました。悔い改めとは神さまにそっぽを向いていた体を、180度くると向きを変えて神さまに向き直すことです。「このままでは神さまの裁きを受ける」と彼は言います。その言葉に聞くわたしたちも、自分の力で神さまに立ち帰らなければならないということでしょうか。

イエス様は洗礼者ヨハネが備えた道を歩みませんでした。「悔い改めた者だけわたしのところに来なさい」ということではなく、イエス様自らがわたしたちの元に来てくださるのです。

この降臨節、わたしたちはイエス様のご降誕を待ち望んでします。なぜ神さまはわたしたちにイエス様を与えてくださったのでしょうか。イエス様がこの世に遣わされる前、神さまは人々に「律法」を与えられました。律法をきちんと守ることで、神さまのみ心に沿う行いができたわけです。しかし、誰一人として律法を本当の意味で守ることができませんでした。

降臨節はイエス様をわたしたちの心にお迎えする準備の期間です。心を静かに、耳を澄まして、イエス様の到来を待ち望みましょう。イエス様は必ず来てくださいます。

たとえば律法にある「殺すな」という戒め。わたしたちは守っていると思うかもしれませんが。しかしイエス様は、兄弟に腹を立てるだけで裁きを受けると言われます。わたしたちは自分の力だけで神さまの前に立つ、正しい人間にはなれないのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>